

## 6月9日(木)

おはようございます。

先日同窓会を行ったときに、私の隣の席だった人が、バレーボール部のOB会の東出さんという方でした。バレー部はもっと強くないといけないのだけれども、その前にちゃんと礼儀を知ること、たとえばちゃんと挨拶ができること、ちゃんと先輩を立てること等が絶対に大切であると言われました。そういう礼儀をまったくなしにして、勝つことだけに集中するというチームもあるという。そして、そういうチームがちょっと強かったりもする。しかし後々選手がぜんぜん伸びないのだそうです。清風の選手の方が、大学に行っても活躍しているし、実業団に行っても伸びているそうです。学校の名前は言えないけれども、礼儀などはかまわずに試合だけ強くなるように指導している学校が大阪にあって、子どもたちのマナーが非常に悪い。そういう子どもたちは結局大学に行っても伸びず、実業団には行けないということがあるのです。だから、挨拶をきっちり教えたりして礼儀を身につけさせることはとても大切だと言われました。

私もその通りだと思うのです。競技スポーツというのは死ぬまでずっとできるわけではありません。だから、その競技を通して自分の人格形成をすることを目指すという姿勢が大切なのです。

日本は最近、フェアジャパンというふうに讃えられています。今朝の新聞にも、ロシアのシャラポワがドーピングしていたということで2年間出場禁止になったと載っていました。彼女は昔から使っていた薬を今年の一月から法律が変わって、それを適用して2年間出場停止にするというのはおかしいのではないかと、きつすぎるのではないかとやっている。しかしそれでも、日本選手の中でドーピングで捕まる選手はいないのです。だから世界中からフェアジャパンと呼ばれている。それは、日本選手は、嘘をつかないし、ごまかさないということなのです。なぜそうなのかというと、日本人はスポーツの基本を「道」だと考える伝統があるからです。

「道」というのは、もともと仏教用語であって、道路のことではありません。それは、意識の有りよう、こころの有りようを指すのです。こころの成長の過程のことを意味すると昔から決まっているのです。たとえば柔道という競技を通じてこころを育てていく、剣道という競技を通じてこころを育てていくといった伝統が日本にはあるものですから、他のすべてのスポーツに関しても、そのスポーツを通じて自分の人格を高めていくという考え方があるのです。

ですから、ごまかしたり、ずるいことをしたり、どんな手段を使ってもただ速ければいいとか、ただ強ければいいというふうには考えない。つまり、ごまかすことを潔いこととしないのです。だから日本人選手のなかからドーピングは全然出ないのです。それで、世界中から再評価されています。

そういうわけで、東出さんが、強くなることだけ考えて鍛えたらもっと強くなるかもしれない。しかしそれは違う。礼儀とか挨拶とかを通じて学ぶことが基本にあり、また自分の人格形成に大いに役立つものとして、スポーツに取り組むことが絶対に大事だと言います。私もその通りだと思います。

以前も話したことがあります、アテネオリンピックで金メダルを取り、日本のキャプテンだった器械体操の米田君、現代の内村選手らの一世代前の選手ですが、彼は清風中学、清風高校を出ています。私も教えました。彼はオリンピック出場が決まり、当時の在校生に話をするために朝礼台に立ったときに、自分は中学でも高校でも天才と言われて、いい加減にやっても優勝したけれども、あれがいけなかった。いい加減にやっても結果を出すことが格好いいと思っていた。しかしそれは間違っていた。世界のトップアスリートたちと互角に戦おうと思ったら、自分を究極まで高めていなければ駄目だとわかった。清風で教わった、核心に触れるまで努力するのだから駄目だとわかったと。

ただ強かったらいいというのではない。クラブ活動とは、スポーツを通じて自分をどうやって高めていくか、自分のこころの有りようを、自分の人格をどうやって高めていくかといった訓練をするものです。そういう道を究めていくという伝統が日本にはある。そういうわけだから、日本人選手の中からドーピングが出ないのです。

諸君たちも自分の人格を磨き高めていくという基本を忘れずに、クラブ活動に取り組んでもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります。

学校長